

公益財団法人 かながわ生き生き市民基金行き

Mail: info@lively-citizens-fund.org

FAX:045-620-9045

締切：2024年10月31日

**第20期（2024年度）福祉たすけあい基金
助成団体事業成果報告書**

頂いた報告書は以下のように活用します。

- 1) 助成金の活用成果として寄付者に報告
- 2) 当財団 HP、広報として活用
- 3) その他、基金の活動に寄与する

*** 活動中の写真を3枚程度、添付してください。**写真はHP、広報として掲載する場合がありますので、掲載可能な写真をお願いいたします。

◆団体名	一般社団法人とえはたえ	◆記入者名	齋藤浩司
◆助成事業名	福島県被災地研修 ～中高生によるスタディツアー～		
◆助成金	300,000 円		
◆助成事業実施期間	2024年8月8日(木)～9日(金) 一泊二日		
◆実施助成事業と内容	<p><目的> 東日本大震災による福島の現状をふまえて、エネルギーと自分たちの未来について考える。</p> <p><主な活動></p> <ol style="list-style-type: none">1 スタディツアーによる学び ・福島県双葉町、浪江町、南相馬市内などの被災地をめぐり、震災の爪痕を見るとともに、復興の現況も見学する。2 グループワークによる学び ・スタディツアーで見たこと、考えたことを小集団で意見感想交換することにより、自分の思考を深める。また、今後の発信の内容や手段についても話し合う。3 共同生活による学び ・一泊二日寝食を共に語り合うことによって、コミュニケーション力の向上並びに連帯意識の醸成を行う。 <p><対象> 中学生、高校生、保護者、教員、民間企業（小学生応相談）</p> <p><研修日と行程></p>		

8月8日(木)

新横浜駅 7:00 発～福島県双葉町東日本大震災・原子力災害伝承館～JR 双葉駅～震災遺構浪江町立請戸小学校～大平山霊園～棚塩工業団地～双葉町産業交流センター(グループワーク)～ビジネスホテル ARM 双葉(18:05 着)

8月9日(金)

ビジネスホテル ARM 双葉(9:10 発)～大熊町中間貯蔵施設～JR 大野駅～大川原復興拠点～おおくまーと(各自昼食)～link る大熊(振り返りワーク)～新横浜駅 19:30 着

◆助成事業の成果

- ・参加は20名。(うち小学生1名、高校生2名)
- ・今回、中高生の参加は少なかった。しかし、教員が12名参加し、次年度以降、所属校の生徒参加のきっかけとなる可能性が見えた。
- ・研修業務を「公益財団法人福島県観光物産交流協会」に委託した。見学先や研修内容のプラン作りを的確に行ってくれた。また、被災経験者をフィールドパートナーと称して、見学場所等2日間同行し、自らの経験談等を語り部的に話してくれた。
- ・研修会場も公共の施設で、机や椅子、空調など受け入れ態勢も完璧であった。
- ・宿泊先は、ビジネスホテルであったが、学生や中高生の受け入れ経験も豊富で、個室も十分にあり、食事バイキング形式で、金額的にも満足できる内容であった。
 - ・参加者の3分の2が、被災地訪問は初めてであった。振り返りを見ても、衝撃的な内容であり、深く考えさせられる機会となった。

◆助成の成果を踏まえた今後の展望

- ・来年度も、実施予定である。(20人程度を予定)
- ・横浜市内高等学校(東高校、横浜総合高校、明蓬館高校、横浜高等芸術学院)の担当者と情報交換をし、生徒参加の呼びかけをお願いする予定である。
- ・今後も、「公益財団法人福島県観光物産交流協会」と連絡をとり、次年度へ向けての打ち合わせを行っていく。
- ・当事業で撮影した画像と、参加者の振り返りをもとに、リーフレットを作成する予定。

◆実施助成事業の決算

支出

・バス代 285,230 円

※残金 14,770 円は返金



